

部会名	平成 29 年度第 1 回障がい児部会		
日 時	平成 29 年 9 月 20 日 (水) 14:00~16:00		
場 所	区役所南館 4 階 災害対策室 B		
参加者	【委員 12 名】 【事務局 4 名】 【オブザーバー 2 名】		
会議の公開 (傍聴)	公開 (傍聴できる)	傍聴者数	2 人
<p><b>1 報告事項</b></p> <p>(1) 障がい児数の統計 事務局より資料に基づき説明を行った。 ・今後、幼稚園と児童発達支援を併用して利用が増えてくると推測できるため、調整を終え次第、障がい児福祉計画の策定についてのアンケート結果を情報共有していく。</p> <p>(2) 板橋区障がい児福祉計画の策定について 事務局より資料に基づき説明を行った。 ・園に対しての支援か、児童に対しての支援かどちらの支援に実効性があるのかは、今後協議していきたい。</p> <p><b>2 協議事項</b></p> <p>(1) 医療的ケアが必要な児童の支援体制について 部会長より資料に基づき説明を行った。 ・現在板橋区では、医療的ケア児の会議体がないため組織の在り方等を協議していく。 ・医療的ケア児の情報をサポートファイルとして統一して、学校や施設にも利用できるように検討していく。</p> <p>(2) 平成 29 年度第 2 回障がい児部会と「乳幼児の発達を支援する関係機関連絡会」(発達ネット)との共催について 事務局より資料に基づき説明を行った。 健康推進課より発達ネットの概要説明と平成 29 年度第 1 回目の報告を行った。</p> <p>(3) 各事業所の現状についての意見交換 ・今後、知的障がい児の特別支援学校も医療的ケアが必要な児童の受け入れをしていくために、検討が必要である。 ・東京 YWCA キッズガーデンが今年 4 月より児童発達支援センターとなった。 ・今年度より放課後等デイサービス事業所の連絡会を開催し、外部講師を呼び研修会の実施や意見交換を行った。 ・今年 10 月より南板橋児童館でも、ほっとサロンを開始した。赤塚児童館と西徳児童館も今後開始していく予定である。 ・来年度より、小学校での特別支援教室の設置完了、巡回指導の開始予定であり、中学校では平成 33 年度には全校設置完了、巡回指導の開始を目指している。 ・心身障害児総合医療療育センターは、予約が取れば 3 カ月以内で診察をしている。 ・子ども発達支援センターは相談期間が 2 カ月から 3 カ月へと延びた。 ・子どもとその家族を支援していくために、障がい児部会で協議をしていき、板橋区へ提言していきたい。 ・その他、各機関の現状と問題点等について報告があった。</p>			

## 第14回 医療的ケア研修セミナー

日時 平成29年11月12日

場所 東京大学 鉄門記念講堂

主催 一般社団法人日本小児神経学会

共催 日本重症心身障害学会、一般社団法人日本小児看護学会

後援予定 厚生労働省、文部科学省 日本小児保健協会、日本小児神経学会関東地方会

### プログラム

午前の部 (9:30~12:40) 小児等在宅医療・地域生活を支える医療的支援について (司会: 米山 明)

- 「医療的ケア」と支援体制などー日本小児神経学会の15年間の取組みをふり振り返りながらー  
北住映二 (心身障害児総合医療療育センター)
- 小児等在宅診療を通じて地域生活支援を考えるー福祉・保健との連携ー  
宮田章子 (さいわいこどもクリニック)
- 在宅生活を支えるリハビリの役割  
直井寿徳 (スマイル訪問看護ステーション)
- 小児等在宅医療を地域で支えるネットワーク作り (医療・保健・福祉・教育)  
谷口由紀子 (淑徳大学看護栄養学部地域看護学領域)
- 行政説明1 小児等在宅医療について  
桑木光太郎 (前 厚生労働省医政局地域医療計画課在宅医療推進室)
- 親の立場から「医療的ケア」について、支援者へ望む事  
野田聖子 (衆議院議員 総務大臣)

午後の部 (13:40~17:30) 学校等における医療的ケアについて (司会: 田角 勝)

- 「学校等における医療的ケアについて」  
分藤賢之 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官)
- 「医療的ケア」必要児童生徒への教育支援: 特別支援学校の現状と課題  
大山衣絵 (東京都立光明学園)
- 特別支援学校における指導医の役割と「医療的ケア」の実際  
山口直人 (東京都立志村学園・心身障害児総合医療療育センターリハビリテーション科)
- 「指示書」は 医療と教育の連携ツールー指示書の意味と学校 (保育所等) での実践ー  
中谷勝利 (東京都立大泉特別支援学校・心身障害児総合医療療育センター研究研修部)
- 今後の「医療的ケア」についてー「学校における人工呼吸器療法児への対応についてのガイド」日本小児神経学会案の紹介ー  
高田 哲 (神戸大学大学院保健学研究科)